



家裁調査官になってみた2019

インターンシップ参加者の声

昨年度、好評だった裁判所インターンシップ。本年度も多くの裁判所で開催されました。

ここでは、大阪家庭裁判所で行われた裁判所インターンシップ(家裁調査官)の様子をお伝えします。

当日は、15人の学生の皆さんが参加し、8月27日から29日までの3日間にわたり、家裁調査官の仕事を模擬体験。

現役家裁調査官から講義や実習の指導を受けることができ、普段は知ることのできない、家裁調査官の仕事の実際を知る機会となりました。

「インターネットで調べるだけでは見えてこない家裁調査官の雰囲気や仕事内容を知ることができた。」



参加された皆さんの様子や感想を主なプログラムに沿ってご紹介します。

1日目

講義(家庭裁判所調査官の役割)



自己紹介の後、家庭裁判所や家裁調査官の役割について講義が行われました。

「少年審判，家事事件での家裁調査官の具体的な役割について理解が深まった。」

庁舎見学

家裁調査官の活動の場である調査室や調停室，子どもとの面接等で使用する家族面接室，人事訴訟で使用する法廷を見学しました。

少年事件調査～事前準備～



少年が暴力事件を起こしたという模擬事例を基に，なぜ少年が暴力を振るったのか，少年を取り巻く環境はどのようなものかなどについて，グループで討議。

「自分で考えることも多いが，実際に不安な点はグループで十分に討議したので，安心してその後のカリキュラムに臨むことができた。」



家裁調査官から，調査方法の例が示され，今回の模擬事例でどのような調査を行うかについても検討しました。家裁調査官の助言だけでなく，参加者の皆さんの経験や大学の専攻で得た知識も生かしながら，活発な議論が行われました。

「少人数の班構成で，落ち着いて取り組むことができた。」，「模擬事例がリアルで，家裁調査官になって仕事をしているような気持ちになれた。」

2日目

模擬面接・処遇意見の検討



2日目は、模擬面接を行い、実際の家裁調査官の面接場面を模擬体験しました。

これまでの調査結果を踏まえ、少年に対してどのような処分が適当か、検討しました。意見が分かれてきましたが、それぞれ説得力のある根拠が示され、白熱した議論になりました。

「会話をどう展開させるか、多角的な視点や臨機応変な対応が求められ、難しかった。」「少年事件の調査の過程を具体的にイメージできた。」

模擬審判



裁判官、書記官とともに、実際に使用されている少年審判廷で模擬審判を実施。参加者が家裁調査官役として少年や保護者に更生に向けたメッセージを送り、少年審判での家裁調査官の役割を学びました。模擬審判終了後は、裁判官も交えて、少年事件の実習を振り返りました。

「自分が家裁調査官役になって、本物の裁判官、書記官と審判を行え、貴重な体験ができた。」「緊張感が肌に伝わってきた。」

家事事件調査～事前準備～



子どもの親権を巡って対立している夫婦の模擬事例を題材に、家裁調査官がどのように関わるか、子どもの調査がどのように行われるのか、講義やグループワークが行われました。

「紛争状態にあり複雑な感情を持つ人を相手に、どのように心を開いてもらうか難しく、専門性や冷静さが必要だと分かった。」

3日目

模擬面接・模擬面接見学



模擬事例を基に、各班で、父、母、子どもそれぞれの心情について検討を重ねた後、ロールプレイに挑戦しました。

また、家裁調査官が、実際にどのように子どもに面接しているか、模擬面接を行い、調査技法や留意点等を紹介しました。

「子どもが抱えるつらさを受け止め、子どもの利益を最大化するという軸をもっていることが伝わってきた。」

報告書作成・模擬調停



子どもの調査の模擬面接後、調査報告書の検討を行いました。その後、調停で調査をどのように父母にフィードバックするかをテーマに模擬調停を行いました。

「父母の気持ちにも寄り添う重要性を学びました。」

実習の振り返り・座談会



実習を振り返り、それぞれが感じたことや学んだことを共有し、実習指導官がフィードバックしました。

参加者の皆さんは、積極的に質問し、実習の理解を深めていました。密度の濃い3日間の実習をやり遂げられ、皆さんが達成感のある表情をされていたのが印象的でした。

「多くの学びを得ることができ、職員の方々との距離も近く、充実したプログラムでした。」

「人生のターニングポイントになるような素晴らしい体験になりました。ありがとうございました。」

参加者の皆さん、お疲れさまでした。